

機能性弾性粘接着剤

PP向けプライマー不要に 液状両面テープ用途模索

セメダイン

セメダインは、主力の機能性弾性粘接着剤「スーパーX」

のラインアップを拡充する。このほど、粘接着材料に対応した製品を相次ぎ開発し、サンプル出荷を開始した。プライマーなしでもポリプロピレン（PP）への接着性に優れる「SX-PP PK1000-1」は年内の商品化を目指す。自動車や家電分野への普及を目指す。テープのように剥がせる液状の弾性粘接着剤「BX-NF01」は用途開拓を模索していく。同社は昨年4月から開始した5カ年の中期経営計画の重点分野に、グローバル展開の拡大とともに製品の新規開拓を掲げており、引き続き高機能製品開発に注力し収益拡大を図っていく。

セメダインはこれまで、オレフィン樹脂を主成分にしたPP樹脂用の

下地処理剤「P1-7F」や、プライマー（接着力強化剤）とシアノアクリレート系の高性能瞬間接着剤からなる「PPX」などを市場展開してきた。新開発の「SX-PP PK1000-1」は

は、カーボンブラック生産拠点の1つである下関工場（山口県）で、2月6日に連続無災害記録1万日を達成した。これを記念し16日、下関市内の「グランプラス セント・ウァレンティン」で記念式典を開催。キャボットグループ本社のパトリック・プレイヴォ社長兼CEO、石合信正キャボットジャパン社長ら同社首脳をはじめ、国内外から約60名が出席した。

自動車や家電分野においては軽量化の要求が高まり、機能性プラスチックや炭素繊維の採用が進んでいる。その結果粘接着剤もPPやポリエチレン（PE）、シリコンなど、難接着材、ポリアセタール（POM）やポリカーボネート（PC）なる

各種エンブラ、炭素繊維といった特別な接着条件が求められる材料への対応が不可欠となっている。粘接着剤もPPやポリエチレン（PE）、シリコンなど、難接着材、ポリアセタール（POM）やポリカーボネート（PC）なる

キャボットジャパンは、カーボンブラック生産拠点の1つである下関工場（山口県）で、2月6日に連続無災害記録1万日を達成した。これを記念し16日、下関市内の「グランプラス セント・ウァレンティン」で記念式典を開催。キャボットグループ本社のパトリック・プレイヴォ社長兼CEO、石合信正キャボットジャパン社長ら同社首脳をはじめ、国内外から約60名が出席した。

下関工場

無災害記録1万日達成



（左から）プレイヴォ氏、石合氏、市川氏

式典の冒頭、プレイヴォ社長兼CEOが「今回安全な企業の上位10%に記録達成により、当社含まれることになった。記念式典を開催。世界20カ国に約40拠点を有する当社のなかでも優れた下関工場の栄誉を称えるとともに、業績への貢献に敬意を示した。これまでも当社は安全を最重視してきたが、下関はキャボットにとって基準となる工場となった。下関チームからは多くの学べることがあり、それを世界中の拠点と共有していきたい」と祝辞を述べた。

石合社長の乾杯の音頭の後、品質管理改善プログラムの発表があった。初販売目標は月間5〜10程度。製造を担当する東邦樹脂工業では月間300トンまで生産可能とする。

PET用マッス

ノンハロ難燃型投入

V-Oクリア、少量で効果

このほど、PET用ノンハロゲン難燃マッスターを発売し、本格生産販売に乗り出した。接着剤メーカーの森川商店（京都市下京区）が開発した

無機リン系難燃剤をPETに練り込んだマッスターパッチで、シート・フィルムに3%程度の難燃剤を混入することで難燃効果を示すUL規格V-O、VTM

「RICHIP PET MB」は無機リン系化合物を難燃剤としてPETに練り込んだマッスターパッチ。ベースとなる難燃剤はノンハロゲンで、樹脂が完全に溶解、繊維化や透明シート・フィルムが可能、高い難燃効果、RoHS指令に対応など

を特徴とする。これを合剤樹脂コンパウンドの東邦樹脂工業（神奈川県綾瀬市）の協力を得てPET用のマッスターパッチとして製品化することに成功した。

最大の特徴は少量の添加量で高い難燃効果を生かすこと。PETに対する難燃剤混入率3%前後でUL規格に基づいて燃焼試験でV-O（20分）

エール

難燃剤関連ビジネスを手掛けるエール（東京都新宿区、兼田哲平社長）は

ファイブ・スペシヤリティ

シン工場を建設し進出は早かったが、中核事業ではなかった。今回は当社の中核

同社は2012年度を最終年度とする3カ年の中期経営計画に取り組んでいる。震災や欧州の債務危機などの影響でハードルが高くなってしま

被災地域の農業再生へ技術実証公開開始。農林水産省は、東日本大震災被災地域の農林水産業復興を目的とする「食料生産技術再生のための先端技術展開事業」の研究テーマを2月20〜3月10日に公募する。事業に関する説明会を24日・29日午後2時から東京・霞が関の農水省で、22日午後1時から仙台市青葉区の東北農政局で開催する。

◆：昨年は震災で鹿島工場が被災しました。鹿島工場の生産を力か

東邦化学工業

東邦化学工業

東邦化学工業

東邦化学工業



処理除草剤の世界の... 剤に比べ、低用量で登録取得は、昨年11月の豪に続いての例目。今後欧州諸国、南米、アジアなどでも登録取得を目指す。

新規除草剤米で登録取得

クミアイ化学

クミアイ化学工業は、15日付で新規除草剤「ピロキサスホルン」の有効成分と、それを含む畑作物除草剤2剤の米環境保護庁（EPA）にお

世界20カ国に約40拠点を有する当社のなかでも優れた下関工場の栄誉を称えるとともに、業績への貢献に敬意を示した。これまでも当社は安全を最重視してきたが、下関はキャボットにとって基準となる工場となった。下関チームからは多くの学べることがあり、それを世界中の拠点と共有していきたい」と祝辞を述べた。

石合社長の乾杯の音頭の後、品質管理改善プログラムの発表があった。初販売目標は月間5〜10程度。製造を担当する東邦樹脂工業では月間300トンまで生産可能とする。

最大の特徴は少量の添加量で高い難燃効果を生かすこと。PETに対する難燃剤混入率3%前後でUL規格に基づいて燃焼試験でV-O（20分）

を特徴とする。これを合剤樹脂コンパウンドの東邦樹脂工業（神奈川県綾瀬市）の協力を得てPET用のマッスターパッチとして製品化することに成功した。

このほど、PET用ノンハロゲン難燃マッスターを発売し、本格生産販売に乗り出した。接着剤メーカーの森川商店（京都市下京区）が開発した

ファイブ・スペシヤリティ

シン工場を建設し進出は早かったが、中核事業ではなかった。今回は当社の中核

同社は2012年度を最終年度とする3カ年の中期経営計画に取り組んでいる。震災や欧州の債務危機などの影響でハードルが高くなってしま